

ふるさと会瀬から

会瀬旧述 その三 「会瀬八景」

江戸期の文化文政のころ（約 200 年前）成沢村の神官瀬谷義文が著した「会瀬旧述」に会瀬八景がある。それぞれの景色に和歌が添えてあるが、風光のよい海岸に沿っての八景である。徳川斉昭が制定した水戸八景より古いもので、当時の会瀬の様子がうかがい知れる貴重な史料といえる。

一景 七夕会瀬

よるなみの それてまたもうちあわす おとぞ会瀬の浦といえなん
七夕磯の先端で二つに分かれた波（夫婦波）が再び一つになる伝説を織り込んだ風景。

二景 鵜島釣魚

みちくれば なおもゆきこうつりびとの ないて鵜島にかかる夕風
潮が満ち、釣り舟が行き交う鵜島の周辺にも夕風が訪れる様子。鵜島は今の「たこ島」。

三景 港中泊船

おちこちの かすめる中ぞ夕かけて 会瀬の浦にかかる諸船
堤防がない、磯に囲まれた入り江に係留されている舟の風景。

四景 伊勢崎松

遠かたや よこたふ霧の間まとまに まがうかたなき伊勢崎の松
伊勢崎は津神社がある岬で形の良い松が磯近くにあり、会瀬の代表的な風景。

五景 端崎砂山

更けつつも 一夜はべらん砂山に 月の陰さえやどるかたなき
端崎は初崎の古称で伊勢崎ともいう。東北東の風で海岸一帯に砂丘が広がっていた。

六景 女夫瀑布

契りおく その水上のあととわん むすばれおちる滝の白糸
釣見崎（現 JR APの東）には雨降川が崖の上から二条の滝となって落下していた。

七景 坊崎常雫

曇りなき 日にもときじく坊崎の 雨かとぞみゆ雫なるらめ
坊崎（現青少年の家西）の岩壁には地下水が四季を問わず雫となって落ちていた。

八景 御山涼風

常盤木の ふとしき神のこけむして 茂りに通う風の涼しき
村の鎮守の鹿島神社（現 台地の南端）境内には多くの松や杉があった。
八景の原型は春夏秋冬の特徴ある風景であるが、会瀬の八景は春から夏にかけてと思われる和歌で表現されている。八景を選定し景色に合う和歌を詠んだ人物は記述されていない。しかし半農半漁の小さな村で四季折々の特色ある風景を散策し見聞することができ、併せて歌を詠むことができる人物は誰だったのだろうか。

推測であるが八景の「常盤木の ふとしき神の苔むして」は神職に携わる人物が表現できるものと推察すると、会瀬八景の制作者は成沢村の神官瀬谷義文ではなかろうか。ちなみに会瀬旧述に近世会瀬浦を訪れ詠んだとされる和歌九首が記されているが、その最後に詠み人が義文の名で一首ある。「ちはやぶる 星の会瀬の二柱・・・」とあり、神の枕詞である「ちはやぶる」を使うことから義文は歌心をもち風流を解する文化人であったに違いない。

会瀬学区三世代敬老の集い 9月4日(金) 会瀬小学校体育館

地区別出席状況 [対象者: 80歳以上(昭和11年4月1日以前生れ)] 単位: 人

地区名	対象者数 (米寿内数)	出席者数			欠席者数 (%)
		本人出席 (%)	代理出席 (%)	合計 (%)	
旭・相賀	110 (6)	17 (15.5)	69 (62.7)	86 (78.2)	24 (21.8)
会瀬1	94 (7)	26 (27.7)	46 (48.9)	72 (76.6)	22 (23.4)
会瀬2・幸町	108 (5)	41 (38.0)	39 (36.1)	80 (74.1)	28 (25.9)
会瀬3・4, 中成沢	43 (0)	11 (25.6)	15 (34.9)	26 (60.5)	17 (39.5)
東成沢	128 (3)	34 (26.6)	40 (31.2)	74 (57.8)	54 (42.2)
合計	483 (21)	129 (26.7)	209 (43.3)	338 (70.0)	145 (30.0)

[本人出席者内訳] 男: 64人(最高齢92歳) 女: 65人(最高齢92歳)



米寿のみなさま



会瀬再発見ウォーク

「七夕磯伝説と旧別荘地を巡る」

各学区で実施しているもっと日立が好きになる日立の魅力再発見ウォーク会瀬学区は9月27日(日)に行われました。コースは会瀬交流センター(8:50)⇒堤防(七夕磯伝説)⇒初崎磯⇒防空壕⇒別荘地跡⇒中世の館跡⇒漁港⇒交流センター(11:30) 行程約3キロ。

参加者25名が小雨の中、会瀬浦にまつわる伝説と海岸線の変化と防空壕を見学しながら戦災体験談と中世の館跡をたどりましました。小学生の親子や3世代での参加者もいました。



避難通路

通称「かんしょの坂」完成

東日本大震災から4年半の歳月がたちました。震災後地域内にある通称「かんしょの坂」の緊急避難通路としての整備が求められてきました。地域住民のみなさまの熱意が認められ地域の要望に添った避難通路が竣工しました。

